

池永輝之先生記念号によせて

池永輝之先生は、本年3月、本学を退職されました。先生は、本学に着任されて以来、40年の長きにわたって本学の教育、研究、学内行政に携わってこられました。本学の中心メンバーとして大学の発展にご尽力くださったことに対して、心から感謝申し上げます。

先生は東京都のご出身で、立教大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得満期退学後、1972年に本学に着任されました。以来、教務部長、評議員、経済学部長を歴任された後、1999年から4年間にわたって学長を務められました。その間の先生の本学におけるご功績は大変大きく、教育改革や学部学科の設置など大学の発展・充実に貢献されました。なかでも2000年の経済学部コミュニティ福祉政策学科の開設、2001年の大学院経営学研究科の創設は学長としての強いリーダーシップの賜物と存じます。コミュニティ福祉政策学科は、学長就任に当たって「地域社会が提起する問題に積極的にこたえていく体制を学内につくり上げたい」と提起された学科です。経済学に“福祉の心”をとの先生のお考えは、現在の経済学部公共政策学科の理念のなかに連綿と受け継がれています。大学院経営学研究科の創設も、本学の多年の悲願でありました。また学長として、中国の上海財経大学、フランスのブルゴーニュ大学、アメリカのハワイ大学マノア校との間で連携協定を締結されるなど、国際交流事業にも精力的に取り組まれました。今日、本学が、国内のみならず広く世界にも開かれた大学となるに至っておりますのも、先生のひとかたならぬご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

先生は、経済学部の基幹科目であるマクロ経済学を担当され、学生がその概念や用語を理解し、分析ツールを自在に使いこなせるように意を用いられ、また、公務員試験など各種試験に数値計算問題が多く出されていることなどに配慮して、定期試験とは別に小テストを頻繁に実施されるなど、学生のそれへの対応・対策に多くの時間を充てられました。ご研究面では、ケインズ理論において重要な役割を占める消費関数の安定性についての理論的・統計的検討を経済学研究の出発点とされて以降、経済学方法論、とくに経済学における数学利用、モデル分析の有効性の問題を研究の中心テーマに据えてこられました。

なかでも、「経済学における数学利用」(経済統計学会編『社会科学としての統計学』第2集, 産業統計研究社)や「モデル分析の有効性について」(『岐阜経済大学論集』第21巻第3・4号)は, 理論的な大問題に正面から取り組まれたご労作と存じます。

このような先生のご在職中の多大なご功績に対しまして, 本年4月に岐阜経済大学名誉教授の称号を贈らせていただきました。

なお, 個人的にも, 先生とは, 社会貢献活動として, 大垣市商業近代化委員会大垣部会『大垣地域商業近代化地域計画報告書』(1982年)の作成や岐阜県シンクタンク『岐阜県産業のソフト化の現状と課題』(1985年)の調査研究で, ご一緒させていただきました。また, 旧経済学部研究棟(旧D号館)時代には研究室によくお話を伺い, 本格的なコーヒーをたてていただいたことが懐かしく思い出されます。

このように公私ともに親しくさせていただいた池永先生をお送りしたことは限りなく淋しいことです。今後とも後進へのご指導を賜りたくお願い申し上げるとともに, 先生の一層のご健勝とご活躍を祈念して, 献辞とさせていただきます。

20012年8月

岐阜経済大学学長 谷江幸雄
岐阜経済大学学会会長